

法王はアイルランドへ

大ローマ布教所長
山口 英雄 Hideo Yamaguchi

法王はアイルランドへ

現法王は8月25日と26日、ヨーロッパではイタリアに次ぐカソリック大国であるアイルランドを訪問した。第一の目的は、3年に1度開かれる「家族会議」世界大会のミサに出席するためだった。26日にダブリンのフェニックス公園で開かれたそのミサには、世界から約3万人もの信者が詰めかけた。

40年前、法王ヨハネ・パウロ2世がアイルランドを訪問した。9月末の数日間に実に延べ270万人ものアイルランド人が、22回にわたって行われた集会、儀式、祈りに集った。ちなみに、その当時のアイルランドの人口は300万人だった。その時集った聖職者は6,200人だったが、今回は3,900人に減った。また、聖職者の平均年齢は70歳であり、憂慮すべき問題となっている。

法王は8月25日、ダブリン到着早々訪問したのがミカエル・ヒギンス大統領であった。そして同席したのがレオ・ヴァラツカ首相だ。彼はゲイだと公然と噂されている。氏は法王訪問の前日、教会の力がアイルランドの公的生活に影響力を弱めていることは、我々に幸福感を与えていると語った。

今回の法王の訪問は、2005年に公表された調査に関係している。ヨハネ・パウロ2世のアイルランド訪問以降、カソリックに関する4度の調査がなされ、発表されているが、その中にカソリックの教育機関で数十回にわたる性暴力、数千回にわたる小児愛症事件が報告されている。それについてアイルランド政府は、ヴァチカンがその出来事を公表しないでいると非難している訳だ。その間にアイルランド政府は、市民の離婚を認め、最近では妊娠中絶も認め、同性婚も認めるようになった。

アイルランドのカソリック教会の恐ろしい行為を紹介しよう。

聖職者によって、妊娠させられ、子供を産んだ女性が多数いる。その生まれた子は、直ぐに母親から引き離され、どこかの家庭と養子縁組されたのだ。それらの母親の悲しみと怒りは計り知れないし、母親から離された子供は成長するに従い、自分の出生を確認しようと動き始めるのだ。

ローマ法王は、カソリックの聖職者による性暴力について、謝罪を繰り返している。今回もアイルランド政府、アイルランド市民に対して謝罪の辞を述べている。

関係者の言葉を記そう。

レオ・ヴァラツカ首相：事件の傷口は癒されないうままだ。義を得て、真相を究明するためにやることはたくさんある。法王よ、それを確実にして、早く解決に向かうべきだ。

アイルランド司教会議議長イーモン・スルティン：スキャンダルに対応するのは全教会の役目である。法王一人では不可能である。

法王フランチェスコ：このような嫌悪をもよおさせる犯罪を前に、教会の過ちは苦痛と羞恥心を引き起こした。

外国訪問後の帰途の飛行機の中での恒例の記者会見。

記者：このような性的犯罪事件が起きた時、信者は一体どうすればいいのか。

法王：そういうことを目撃したら、直ぐに裁判官に、神父に、教区主任司祭に話すべきだ。

記者：自分の子がホモセクシャルで、他のホモセクシャルの人と共同生活をしたいと言ったら、親はなんと言うべきか。

法王：第一に祈ることだ。非難してはいけない。対話すること

だ。そこから理解が生まれる。子供にも選択の余地を与えること。この場合、黙っていることは解決の糸口とならない。父性、母性の欠如を反省し、子供に対し、我が子と自覚し接することだ。

法王に辞任の要求

法王フランチェスコのアイルランド訪問が終わる頃、つまり、8月26日の日曜日にショッキングなニュースが流れた。

それは2013年にアメリカのワシントンに、ヴァチカン市国の大使として赴任していたカルロ・マリア・ヴィガノー司教による法王糾弾のリポートだった。それによると、法王フランチェスコは、2013年にアメリカ人のテオドール・マッカリック枢機卿の10年前後に及ぶ性的事件を知っていた筈だが、法王はその事実を隠し続け、何ら非難もしていないということだ。そのためにヴィガノー枢機卿は法王の辞任を求めている。

この声明を、ヴァチカン側はスキャンダルを呼び起こそうとする企みだと受けとっている。それゆえに法王はヴィガノー司教のレポートを深刻には受け止めてはいない。法王はその声明に応えず、沈黙を決め込んでいる。いや、沈黙が問題を解決してくれると思っている。そして、法王の選んだ対策は祈ることだ。祈ることはすべてを解決してくれるのだ。真実というのは静かなものだ。いろいろと慌ててしまうと真実を見失ってしまうものだ。法王の忍耐と慎重さは良き道を進んで行く筈だ。法王が今返事をしないということは永遠に返答しないということではない。良き旬がくれば、返答することもあるだろう。

さらに29日にも、ヴィガノー司教は法王非難を繰り返していたが、いつのまにか彼は姿を消してしまった。メディア関係者が押し寄せてこないようにとの配慮らしい。少し前のことだが、2012年5月2日、未だ法王はラッツィンガー（ベネディクト16世）だったが、ヴィガノー司教はマッカリック枢機卿を公共の場に出さないよう、ベネディクト16世から要請されていた。しかしその日のガーラディナーの開会の辞で、ヴィガノー司教はマッカリック枢機卿を持ち上げ、栄えあることを祈ろうと宣言しているのだ。ヴィガノー司教はなぜこのような声明を出したのだろうか。ヴィガノー司教は自分の思うようなカソリック内での出世ができなかったため、こんなリポートを発表したのだらうと噂されている。

本年のシノド会議（世界司教会議）

シノド会議は本年10月に「若者」をテーマにして、ヴァチカンで開かれる。すでに3月には、法王がローマに若者を集めて大会が開かれたが、10月に正式な大会が開かれるに先だつて、ローマにイタリア各地の若者たちを集め、11日はチルコマッシモ大競技場で、12日にはヴァチカンのサンピエトロ広場で大会が開催された。それには、イタリア各地の教区教会195カ所から7万人のパパボーイズ（法王支持の若者）が600台あまりのバスに分乗し、集った。もちろん電車で来た者、徒歩で参集した者もいる。これはイタリア司教会議が主催者となって開かれたものだ。この2日間の大会で法王は次のように語った。

「若者よ、ソファに座って、ドロップをしゃぶっているだけでは、心を壊してしまうよ。」「若者よ、夢を持って、その夢を盗まれてはいけない。君たちを理解し、助けることのできる良き師をさがせ。そしてそれが実現できるように心を尽くせ。」